

プレゼンテーションで研究感性を磨こう!

自分の研究を口頭発表すること（研究プレゼンテーション）は研究者の基本的活動の一つです。みなさんの多くはすでに国内外の学会で自分の研究成果を発表されているでしょうし、そのような経験や経歴が自分のキャリアアップにもつながることは意識されていることと思います。しかし、研究プレゼンテーションの本質は、研究成果の一方方向性の情報発信ではなく、演者と聴衆の間の双方向性の情報交換です。聴衆から与えられる様々なフィードバック（質問、コメント、提案、など）によって演者は自分の研究を発展させることができます。ひいてはそれが研究コミュニティ全体の研究力強化にもなるでしょう。このような聴衆との対話を充実させるためには、演者は「自分の研究成果」を語るだけでなく「自分自身の特性」をも伝えなければなりません。本セミナーでは、この2つを同時に伝えるための方法を議論し、「Key QuestionとPerspective Frame」という二つの「プレゼンテーションの構成要素」を紹介します。この2つの要素を活用すれば演者は研究成果を効率的に伝えやすくなります。さらに、これらの要素に演者独自の工夫を凝らすことで、自分の研究感性を磨き、それを提示することができるのです。

2021年

開催日時

8月31日（火）17:00～18:30

開催方法

オンライン開催（要事前登録）90名（先着順）

本オンラインセミナーは見逃し配信はありません。

主対象者

山口大学の教職員、学術研究員、大学院生 等

申込方法

メールにて受付 conso@yamaguchi-u.ac.jp

タイトルに「プレゼンセミナー」と明記の上、お名前、ご所属、学年（学生の場合）、「プレゼンに関して悩みのある方は、その悩み」をご連絡ください。

申込者には、参加方法を別途お知らせいたします。

申込締切

2021年8月23日（月）17:00

講師

広海 健 氏

国立遺伝学研究所 名誉教授



東京大学大学院理学系研究科物理学専攻、理学博士（1982）。大学院生だった時、指導教員に「広海君の話は3回聞いてもわからない」と評されたのがきっかけでプレゼンテーションに興味を持つ。13年間の海外での研究生活を経て国立遺伝学研究所（遺伝研）教授に（1996）。発生遺伝学の研究の傍ら、同僚の平田たつみ教授による研究プレゼンテーションの方法論の開発に協力。2013年に教授を辞めてリサーチ・アドミニストレーターになって「研究力強化」に従事。2019年定年退職。共著「遺伝研メソッドで学ぶ科学英語プレゼンテーション」（2016年 dZERO社）。<https://researchmap.jp/read0001404>

担当

産学公連携・研究推進センター URA 吉本信子

内線：5255 E-mail：conso@yamaguchi-u.ac.jp